温泉探訪

―究極の温泉―（下）

弁護士　後藤　正治

5

江戸時代は、自噴泉でしかない。時代が進み、科学技術が高度化して、掘削技術も高くなると昔では想像もつかない１０００mもの深さを掘削して温泉を掘り当てる。お湯を地上に上げるのも動力を使う。いわば、力任せにお湯をくみ上げる。この方法によると、自然の湧湯能力を超えて、地下から揚げてくるので、温泉成分も時を経て形成されるはずの成分が壊され、掘削が競争になると枯渇してくる。かっては、著名な温泉地でも、源泉数カ所の温泉を集め、水道の水のように蛇口をひねって温泉を配る集中管理方式を採用するようになる。温泉の濫掘による温泉地の衰退を防ぐ意味で、大切な方式である。しかし、他方で、温泉の湯量が少ないことを意味し、源泉かけ流しの本来からすると、後退することは否めない。従って、自噴泉が自然に優しい。これにも、掘削自噴泉と自然湧出泉とがある。自然湧出泉は、歴史的に古い温泉地がほとんどとなる。掘削技術がない時代に温泉地となったからである。

6

日本温泉協会は、温泉に成績表を付けている。温泉協会の点数は、6科目の5点段階評価である。オール5点もあれば、オール3点もあり得る。論理的に評価法を見ると、①源泉自体の能力（自噴泉など湧出法、温度、湧出量、泉質）②施設の浴槽に対する行為（01循環濾過か、源泉かけ流しか02加水、加温の有無、03浴槽に温泉が満杯になる時間・湧出量が少ないにも関わらず、浴槽が大きいと長時間となる。04消毒剤など添加の有無）③源泉と浴槽との距離である。このような評価をもとに、オール5点を取った施設は、群馬県鹿沢温泉　紅葉館雲井の湯、群馬県法師温泉　長寿館、山梨県石和温泉　旅館深雪温泉、山梨県下部温泉　古湯坊源泉館、長野県小谷温泉　山田旅館、山口県川棚温泉　小天狗、長崎県雲仙温泉　いわき旅館など数少ない。山梨県石和温泉　旅館深雪温泉の湯量と適温は、素晴らしい。また、日帰り温泉施設も、オール5点を得ているところがある。

7

このように良い温泉の要素を学んでくると、「究極の温泉」の方向性が分かる。オール5点の施設は、そうあるものではないから、申し分のない温泉施設であるが、オール5点の施設が究極の温泉というわけではない。こうなると、もう独自独断の話しになる。私は、足元自噴泉を究極の温泉と考えている。足元自噴泉というのは、文字どおり足元から温泉が自噴してくる温泉である。温泉の湧出場所自体が湯船になっている。この温泉は、条件がなかなか難しい。①自噴泉である。②冷鉱泉では、冷たい、高温泉では熱すぎるので、温泉が湧いている場所を湯船とするわけにはいかない。温度的には、30度～42度の範囲内である。③場所も湯船とできる位置になければならない。こうなると、温泉施設のほとんどがこの条件をクリアーできなくなる。

この究極の温泉は、北海道　からまつの湯（野天）、群馬県法師温泉長寿館、山梨県下部温泉古湯坊源泉館、神奈川県箱根・姥子温泉　秀明館、長野県白骨温泉　新宅旅館、青森県　蔦温泉旅館、谷地温泉などがある。

私は、温泉とは何かを考えるようになって、究極の温泉の条件までたどり着いた。

足元自噴泉を紹介している「奇跡の湯　ぶくぶく自噴泉めぐり」（山と溪谷社）の本を参考に平成27年3月から「究極の温泉巡り」を始めた。

奥蓼科温泉郷の渋御殿湯は、山小屋のようだと家内には不評であったが、湧き出る足元自噴泉は、正に本物で驚嘆する。下部温泉の源泉館は、湧出量415L／分の足元自噴泉は素晴らしく、家族に評判だった。白骨温泉の新宅旅館は、足元自噴泉にはほど遠かったが、白濁の湯・食事・部屋、すべてがグレードの高い内容だった。北海道、養老牛温泉のから松の湯は、雪に囲まれ、露天ならぬ野天であったが、お湯の新鮮さは強烈だった。青森県八甲田の蔦温泉旅館は、上品で新鮮なお風呂であり、日帰りではなく、ゆっくりと泊まりたい温泉だった。谷地温泉は、湯治のひなびた旅館である。酸ケ湯温泉旅館も足元自噴泉とのことであるが、規模、人の多さ、ヒバ千人風呂などで圧倒されて、足元自噴泉であったことすら忘れていた。一度は、体験したい温泉である。

「自噴泉めぐり」の本に従い、探訪してみると、この本には、間違ったレポート部分もあるが、良い本だ。これから当分の間、足元自噴泉、そうでなくとも湯量の多い源泉かけ流し温泉を訪ねていく旅をするだろう。本物の温泉に巡り合って、「至福の時」を感じるが、これ以外、ほかに何に巡り合うのだろうか。これも訪ねたい。

8

足元自噴泉や湯量豊富な源泉かけ流しの温泉は、北海道から九州まで、全国にたくさんある。北海道「登別温泉」、秋田県「鶴の湯」、山形県「銀山温泉」、新潟県「駒の湯温泉」、岩手県「国見温泉」、福島県「二岐温泉　大丸あすなろ荘」、栃木県「那須温泉」、大分県「別府温泉」、その他、まだ行けてないところだらけである。

校友会で温泉探訪会を1年に1回、持ち回りで企画するのもいいではないだろうか。私が第1回を企画しても良いし、声をかけて頂ければ、探訪したいものです。　終

通信教育部事務局より

■入学課

『入学生募集！』

平成29年度後期生（10月入学）を募集します。募集期間は、7月10日(月)～10月31日(火)です。

通信教育部では、より良い学習環境の整備に力を入れており、平成29年度は550講座を超えるスクーリング、メディア授業は約80講座を開講しています。ホームページは、より早く新着情報を更新するなどの有効利用に努めています。在学生は、ポータルサイトから科目修得試験・スクーリングの申込をはじめ、各自の履修登録・リポート提出・成績の状況が確認でき、その便利さを感じられた方も多くいらっしゃると思います。

皆さんのお知り合いの中に、働きながら学べる大学を探している方、資格取得や生涯学習として学びたいと考えている方がいらっしゃいましたら、是非、皆さんの経験した日本大学のスケールメリットや通信教育部の魅力を教えていただき、本学への入学を勧めていただきたくお願い申し上げます。

入学のご相談は、入学説明会のほか、全国の学習センターや学事相談会でも行っています。開催日時や会場については、ホームページをご参照ください。

通信教育部では、昼間スクーリングをメインとした高校生向け資料も用意しております。高校に勤務されている先生方、また高校の先生をご紹介いただける方がいらっしゃいましたら、通信教育部入学課までご連絡ください。資料を送付いたします。

■教務課

『3月卒業』

平成28年度3月卒業式が、3月25日(土)に日本武道館で行われ、通信教育部からは341名の学生が卒業しました。

卒業式終了後、通信教育部校舎での学位記伝達式に引続き、ベルサール飯田橋駅前で卒業祝賀式が行われました。

卒業祝賀会は、白戸忠志通信教育部校友会会長から祝辞をいただいた後、樽酒で鏡開きが行われ、盛会のうちに終了しました。

『在学生数』

5月1日現在での在学生は、6，779名です。

学修支援センター

平成28年4月に設置してから1年が経過しました。1，500件を超える窓口や電話、郵送での問い合わせがあり、内容は学修の仕方、本人に合った学修方法、教職希望者の履修科目、修得単位の確認などが中心です。これからも不安や不明な点を解決する窓口として、学生みなさんの学修サポートをしてまいります。

■研究事務課

『研究紀要』の発行

平成29年3月、通信教育研究所から『研究紀要』第30号が発行されました。

■教職員人事

異動〈転出〉(29・4・1)
研究事務課長　清野正昭参事（本部研究推進部へ）

異動〈転入〉(29・4・1)
研究事務課長　齊藤　誠参事（生物資源科学部から）

解任(29・3・31)
通信教育部長　関根三三夫

任命(29・4・1)
通信教育部長　関　正晴

新規採用(29・4・1)
見習職員（教務課）　鈴木　健太

通信教育部校友会より

《「会報92号」原稿依頼》

平成30年1月1日発行の原稿について。各支部、ブロックの行事予定及び活動報告、春秋の叙勲・褒章の受賞者、支部活動の貢献者等の校友紹介、本部及び事務局に対する提案、エッセイ、旅行記その他何でも結構です。11月10日までに校友会事務局あてお送り下さい。

原稿は次の事項に留意してご提出願います。

(1)校友会指定の原稿用紙を使用するか、ワープロソフトの場合は縦書き「11文字」とする。
(2)数字及びアルファベットは1マスに2つ書く。
×平成二九年
○平成29年
(3)時間は24時間。
(4)曜日は1マス。(日)
(5)校友紹介の原稿には顔写真を添付願います。

注　ご寄稿の原稿は、忠実に記載するよう心掛けておりますが、会報の公共性、紙面構成（割付）の都合等により原稿の趣旨への影響を考慮しながら訂正する場合がありますので、予めご了承下さい。

《ブロック・支部総会報告》

報告書は次の事項に従いご提出下さい。ご提出下さいましたブロック及び支部には助成金を支給します。

提出資料は、
(1)開催報告書
前項の条件を遵守し、600字程度にまとめて下さい。
(2)集合写真1枚
(3)助成金振込用紙

注　ブロック助成金　3万円
支部助成金　2万円

《会報発送補助費について》

通信教育部校友会報を支部の方々に発送した際は、左記の書類を揃えて、校友会事務局にご申請下さい。1部80円の補助費が支給されます。

①会報発送補助費申請書
②発送代金の領収書のコピー
③支部の郵便振込用紙

《事務局よりお知らせ》

《住所変更についてのお願い》

校友会報の発送、総会の案内状発送等に必要ですので、引越等で住所が変更になった場合は、なるべく早く校友会事務局までご連絡下さい。

尚、校友会事務局は毎週月・火・木・金曜日（祝祭日は除く）10時から18時の間。上京の節は、是非お立ち寄り下さい。

8月14日(月)より21日(月)までは夏季休暇、12月28日(木)より平成30年1月9日(火)までは冬季休暇です。

日本大学通信教育部校友会　監査
東京都支部　顧問
川熊長子
〒270-2261　千葉県松戸市常盤平西窪町二一-一五
電話　〇四七-三八八-〇六一八

日本大学通信教育部校友会　千葉県支部　支部長
仲井博幸
〒289-2503　千葉県旭市江ケ崎一一一八-五
TEL　〇四七九-七五-四九一〇
FAX　〇四七九-七五-四九一〇

日本大学通信教育部校友会　副幹事長
三上英子
〒166-0003　東京都杉並区高円寺南四-三四-一〇　グランドコート三上六〇一
電話　〇三-三三一一-一二一八

日本大学通信教育部校友会　副会長
取締役会長
吉村益吉
特急はんや有限会社
本店　〒750-0006　下関市南部町二六の一六
電話　〇八三-二二二一-八八一七
電話　〇八三-二二二一-二二七〇
FAX　〇八三-二二二三-六六〇〇

日本大学通信教育部校友会　副幹事長
日本大学通信教育部校友会　山口県支部顧問
村田義和
〒747-0341　山口県山口市徳地引谷戸祢七九九
TEL　〇八三-五五六-〇七三六
FAX　〇八三-五五六-〇七三六

わこう保険グループ
㈱若生保険事務所
日本大学通信教育部校友会　幹事
日本大学通信教育部校友会　埼玉県支部副支部長
取締役会長
若生健一
〒331-0811　埼玉県さいたま市北区吉野町一-二一-一二
電話　〇四八-六六六-〇八九八(代)
FAX　〇四八-六六五-一二二四八
携帯　〇九〇-三〇八〇-三三五二